

小学生選抜陸上競技大会 競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は 2026 年度日本陸上競技連盟競技規則および本競技会申し合わせ事項により実施する。
競技規則・TR5（競技用靴）は適用しない。

2. 選手受付について

- (1) 受付：7 時 30 分から TIC で行う。来場時間にあわせて受付が可能。クラブチームの受付はできるだけチーム代表者がチーム全員分をまとめて行うこと。事情により個別受付を希望する場合は、その旨を TIC に申し伝えること。
- (2) 受付の際には、プログラム、アスリートビブスを配布する。受付と招集は異なるので注意すること。

3. TIC（競技者案内所）について

競技場 1 階正面入口前に置き、以下の業務を行う。

- ①大会プログラム訂正申請書の受付（申請書は、プログラム巻末に添付）
- ②審判長への抗議は、その種目の正式結果発表 30 分以内（但し、トラック種目で予選がある場合は 15 分以内）に、TIC 係にチーム代表者が申し出て、内容を所定の用紙に記入すること。・ジュリーへの上訴は、審判長の裁定から決勝 30 分以内、予選 15 分以内に TIC へ預託金 10,000 円を添えて、チーム代表者が行うことができる。
- ③落とし物、各種問合せ ④プログラム販売（1 冊 500 円）

4. 招集について

- (1) 招集所は 100m スタート地点外側のゲートに設ける。
- (2) 招集時間は、プログラム記載の、競技日程ページで確認すること。
- (3) 招集は招集開始時刻から招集所に入場して、招集完了時刻までに招集所で競技者係の点呼を受けること（直接、競技場所へ行ってしまうはいけない）。その際、アスリートビブス・スパイクピン等のチェックをする。スパイクピンはオールウェザー用を使用すること。スパイクのピンは全種目 9mm を超えないものとする
- (4) トラック競技は腰ナンバー標識のチェックをする。
- (5) 代理人による招集は認めない。
- (6) リレーのオーダー用紙は TIC で受け取り、招集完了時刻の 60 分前までに招集所に提出すること。提出が遅れた場合は欠場扱いとし、競技に出場することはできない。
リレーメンバーでリレーに出場しない選手は友好 100m に出場することができる。出場を希望する場合は、リレー招集完了 1 時間前までに TIC へ申し込むこと。招集時間に招集も受けること。
- (7) 棄権をする場合は、本人または代理人が必ず招集所に申し出ること。招集完了時刻に遅れた競技者は当該競技を棄権したものとみなす。
- (8) 競技場内への入退場は、すべて競技役員（競技者係・マーシャル等）の指示・誘導によって行うこと。また、出場する選手以外は招集所内に入らないこと。
- (9) コンバインドは第 2 種目も招集所で招集を行う。

5. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスはそのままの大きさと胸と背部に確実に固定すること。跳躍競技については胸または背部どちらかでもよい。
- (2) トラック種目の全選手は、腰ナンバー標識をパンツ右側の上部、やや後ろにつけること。腰レーンナンバー標識は招集所で配布する。腰ナンバー標識を受け取っただけでは招集完了とはならないので、注意すること。

6. 競技方法について

トラック競技

- ①レーン順はプログラム記載通りとする。
- ②スタートの合図は英語で行う。(On your marks(オンユアマークス) ※従来の「位置について」 → 「Set(セット) ※従来の「よいい」)
- ③同じ競技者が不正スタートを 2 回行うと失格となる。失格となった場合、そのレースをオープン参加として走ることができる。
- ④スタートはクラウチングスタートのみとする。スターティングブロック使用の有無については選択できる。
- ⑤80m ハードルはハードルの高さが 70 cm、インターバル 13m-7m (9 台) -11m。

フィールド競技

- ①試技順はプログラム記載通りとする。
- ②フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- ③男女コンバインドA走高跳のバーの上げ方は以下のとおりとする。練習は足合わせ時間（バーを置かない）を設け、次に2つの高さでの練習時間（バーを置く）を設ける。ただし、天候等の状況により練習の高さを含め変更する場合がある。

練習の高さ	1	2	3	4	5	6	7	…
90cm/110cm	95cm	1m00	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	以後3cmずつ

- ④走高跳は、はさみ跳びとし、マットへの着地は足裏からとする。背・腰から着地した場合は、無効試技となる。2回続けて失敗をした時点で終了とする。
- ⑤走幅跳、ジャベリックボール投の試技は2回とし、すべての試技を計測する。
- ⑥ジャベリックボール投は「ニシ・スポーツ／ジャベボール（140g）」を使用する。競技場に準備してある炭酸マグネシウムをボール先端につけて（落下地点に痕跡を残すため）、ボール本体を持ち、オーバーハンドスローで投げることにする。＊羽だけを持って投げることは禁止する。助走距離は15m以内とする。投げたジャベリックボールが地面に着地するまでは助走路から離れないこと。

リレー競技

- ①テークオーバーゾーンは30mである。ゾーン外（ゾーン内のラインを次走者がスタート側のラインを超えて）から走り出すことは失格とする。
- ②リレー競走の競技者は、大きさが最大50mm×400mmの粘着テープ（マーカー）を1箇所、自身のレーン内に貼ることができる。マーカーは主催者が用意し、各走者のスタート地点で出発係が配布する。それ以外のマーカーの使用は認めない。次走者のつけたマーカーは、走り終わった前走者が必ずはがすこと。
- ③リレーメンバーは当初エントリーしたメンバーのみ出場ができ、同じ団体の他種目選手をメンバーに入れることはできない。当日にメンバー4名が揃わずにオーダーが組めず、リレーを欠場する場合は、友好100mへの参加を可能とする。4. 招集について(6)に準じて申し込むこと。

コンバインド競技

- ①記録に得点をつけて2種目の合計得点で順位を決定する。得点は、『JAAF 小学生混成競技得点表(2022年度改訂版)』による。得点表は日本陸上競技連盟ホームページ「日清食品カップ全国小学生陸上」ページに公開されている。【URL】<https://www.jaaf-nissincup.jp/>
- ③走幅跳の試技数は2回。走高跳は2回続けて失敗をしたら競技終了とする。
- ④80mハードルと走幅跳における風速は計測するが、得点・順位には影響しない。
- ⑤得点表の通り50点以下は全て50点となる。
- ⑥スタートまたは試技を行い、途中棄権(DNF)、記録無し(NM)、失格(DQ)、参考記録(80mハードルにおいて不正スタートとなりオープン参加時の記録)の場合、得点は0点とする。
- ⑦1種目目に出場し、途中棄権、記録無し、失格、参考記録の場合、2種目目の出場は可能とする。
- ⑧1種目目で欠場した(スタートまたは試技を行わない)競技者は、2種目には出場できない。
- ⑨1種目目または2種目目のいずれか、または両方において、途中棄権、記録無し、失格、参考記録の場合、2種目の合計得点は、得点として認められる
- ⑩2種目の合計得点が同点の場合は、同順位とする。

助力

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出ること。(コーチング、トイレ等)
- ②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバやスマートフォンもしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- ③コーチ等からの助言は、競技場区域外(スタンド)のコーチングエリアのみとする。その際、スタンドで撮影した機器を、提供する者のすぐ近くの位置で競技者が手に取って操作することは助力にならないが、映像確認後にコーチ等に再生機器等を返さずに、競技場所等に持ち込む場合は助力とみなす。

7. 競技結果について

大型スクリーンおよび長野陸協ホームページ「DATA_WEB」→「競技会結果2026」に速報掲示をする。

8. 表彰について

- (1)各種目全順位に賞状を授与する。
 - 1位～8位の選手は表彰を行うので、競技終了後に競技役員の誘導で、表彰控え室に移動する。
 - 9位以下の選手の賞状はTICで配布するので、各選手、各チームが受け取りに来ること。

9. ウォーミングアップについて

小学生は補助競技場で行うこと。

監督・チーム関係者が付添い、事故防止につとめること。

トラック→周回練習、テンポ走左回りで利用する。

走高跳のマットを利用した練習、ジャベリックボールやその他ボールを投げる練習はできない。

体操や動きづくりは、芝生フィールド内、その他の空いているエリアで行うこととする。

小学生の雨天走路、屋内練習場でのウォーミングアップおよび入場はできないこととする。但し、雨天時には利用可能とし、利用方法はアナウンス連絡をするので順守すること。

10. その他

(1) スパイクピンの長さは9mm以内、走高跳・ジャベリックボール投は12mm以内とする。

(2) 競技場に商品名のついた衣類、バッグを持ちこむ場合は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」に順守すること。

(3) チーム待機エリアは正面1階コンコースとバック大屋上下とする。テントを設営する場合は重し等で固定すること。

(4) 応援については、メインスタンド及びフィールド競技の進行の妨げとなる場所での集団応援はしない。

(5) 横断幕及びのぼり旗などの応援布の設置はアルプススタンドフェンス、バックスタンド大屋上フェンス（スピーカー等を覆わない）のみとする。

(6) スタンドからの撮影は、その選手の関係者のみ許可し、それ以外の撮影は認めない。望遠レンズ付きカメラでの撮影を認めない。また、撮影禁止エリア（フィニッシュライン後方スタンド・バック北側スタンド）での撮影は一切できない。

(7) 競技場所からの退場は、第1ゲートに設けたミックスゾーンを通り、階段を上って退場する。

(8) 地震、台風、雷、荒天又は猛暑の場合は、大会を一時中断又は中止することがある。また競技順を入れ替える場合もある。